



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学埋蔵文化財調査センターニュースレター 第50号
Description	特集 発見された近代の痕跡
Citation	北海道大学埋蔵文化財調査センターニュースレター, 50 https://doi.org/10.24484/sitereports.143953
Issue Date	2025-10
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/96198
Type	journal
File Information	newsletter_50.pdf



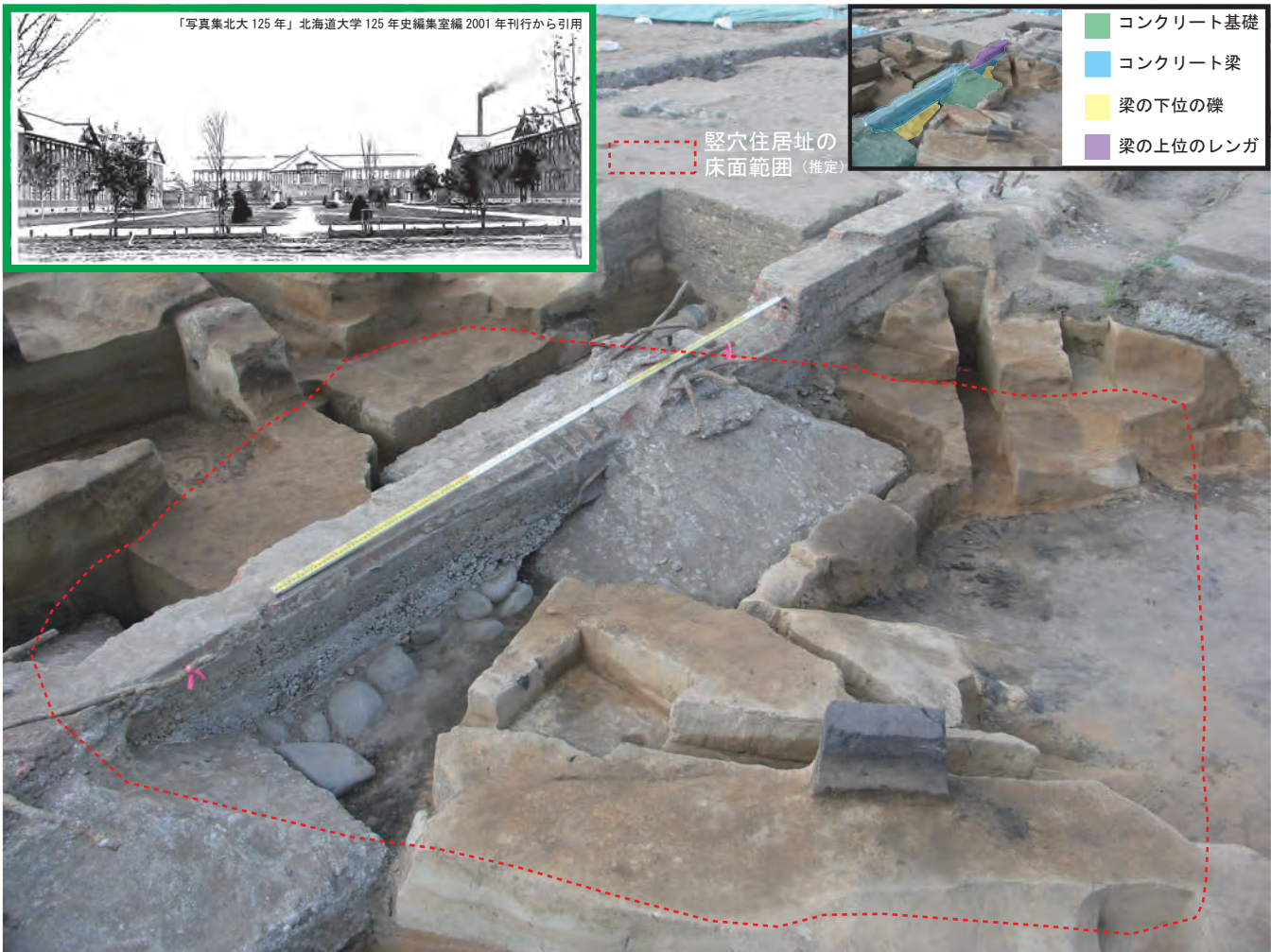
埋蔵文化財調査センター ニュースレター

特集 発見された近代の痕跡

構内では、近代の札幌農学校、東北帝国大学農科大学、北海道帝国大学の校舎、研究施設などが建築、使用されていました。ここでいう近代とは明治維新から第2次世界大戦までの時期です。多くの建物がみられなくなった一方で、モデルバーンなど札幌農学校第2農場の建物は当時の建物上屋がほぼ現存し、近代の建築様式を見ることができます（詳細は、「写真集北大125年」（北海道大学125年史編集室編 2001年刊行）でまとめられています）。

構内で発掘調査が実施される際、近代の造成土が地表下1m未満の深さで確認されます。多くの場合、発掘調査の対象とされない造成土では、構内で近代に利用・廃棄された建築物などの痕跡がみつきり、その規模・形に驚かされます。

本特集では、構内の地下で発見された近代の痕跡を紹介します。



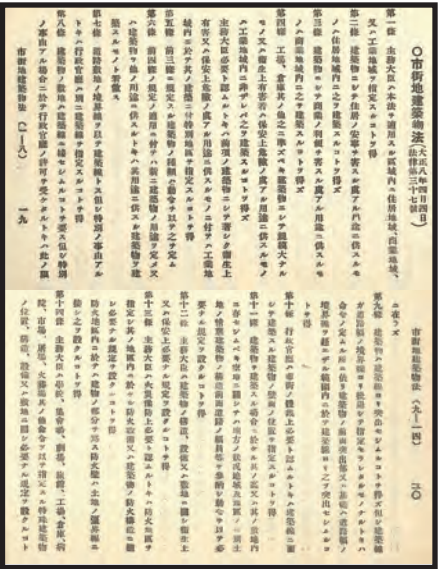
▲ K39遺跡薬学部ファーマサイエンス地点で確認された縦穴住居址および近代の建物コンクリート基礎（2頁表の4）
2013年度、薬学部総合研究棟の建設に伴い、事前の発掘調査を実施した。約9世紀の縦穴住居址が確認されるとともに、近代の建物基礎工事で当該縦穴住居址の約半分が壊されていた。建物沿革が記録された地図と当該地点を照らし合わせた結果、当該建物基礎などは、1920年に建てられ、利用されていた医学部解剖学講義室（左上写真の中央の建物）と推測できた。

市街地建築物法

近代の建築物に関わる法令に「市街地建築物法」、「市街地建築物法施行規則」などがありました。

1919（大正8）年に制定された「市街地建築物法」では、建物建築に関わる原則が示され、1920（大正9）年に定められた「市街地建築物法施行規則」では、建物の構造強度（例えば、木構造及び木骨構造、石構造、レンガ構造及びコンクリート構造）などが規定されていました。近代後半の各種建物は、上記の法および施行規則に準じて、計画・施工されていました。

1950（昭和25）年に施行された「建築基準法」に当該内容の多くが受け継がれています。



▲「市街地建築物法」（一部抜粋）

蔵前公務所編 解説市街地建築物法 工学書院 1921年刊行から引用

第20回企画展「北海道式古墳」の開催中

当センターでは、2025（令和7）年8月22日から第20回企画展「北海道式古墳」を開催中です。

ニュースレター第14号の内容に基づいて、東北地方北部から北海道地域でみられる「北海道式古墳（末期古墳とも呼称）」が、構内調査で発見された様子を展示・解説しています。是非、ご覧ください。



▲企画展の様子

第24回トレイルウォークの開催

2025（令和7）年9月27日に、「サクシュコトニ川の支流とその周辺で発見された地点」をテーマとして、構内の遺跡を散策するトレイルウォークを開催しました。参加者54名とともに、埋蔵文化財調査センター展示室、陽子線研究施設地点などを、センター員、ボランティア活動員が引率・説明しながら、巡りました。



▲トレイルウォークの様子

編集後記

構内の地下を発掘調査すると、近代の建物の痕跡が発見される場合があります。その痕跡と過去の構内の建物配置図とを照らし合わせ、当時の建物を特定し、その建物の写真を探すと、その外観、大きさに魅力が感じられ、びっくりします。多数の校舎、研究施設が建てられ、利用されていた構内の歴史をその時に強く感じます。（守屋）

北海道大学埋蔵文化財調査センターニュースレター第50号

発行 : 北海道大学埋蔵文化財調査センター
〒060-0811 札幌市北区北11条西7丁目

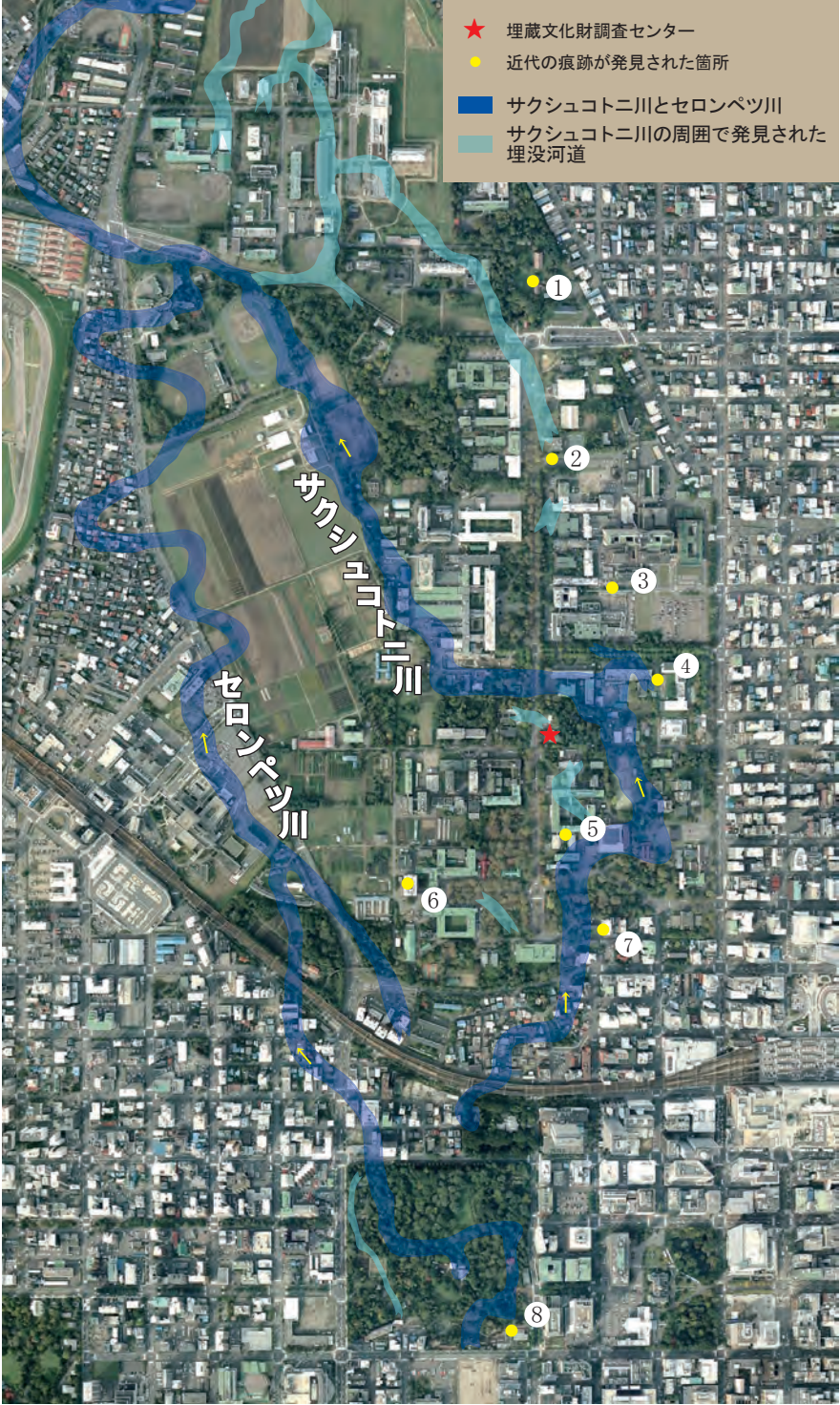
電話 : 011-706-2671 FAX : 011-706-2094

e-mail : hokudaimaibun@gmail.com

URL : <http://maibun.facility.hokudai.ac.jp/>

印刷 : 柏楊印刷株式会社

発見された近代の痕跡



▲こども本の森地点で発見された暖房施設

地表下約50cmの深さで土管とレンガを組み合わせた施設の一部が発見された。土管内に多数の焼土・炭があったことから、暖房施設の一部と推測した(下表の7)。



▲医学部陽子線研究施設地点で発見された建物基礎

調査によって、地表下約50cmの深さで、コンクリート製の建物基礎が発見された(赤丸破線箇所)。基礎の下位では人頭大の礫が重ねられていた(下表の3)。



▲経済学研究棟改修工事箇所で確認された暖房施設

文系共用棟建設に伴う事前調査で地表下約50cmでレンガ組構築物が発見された。発見位置及び多数の石炭が周辺にあったことから、1909年から使われた林学教室周辺の暖房室の一部と推測した(下表の5)。

番号	地点名	近代痕跡の時期※	立地	種類	主要構築物	調査年	報告書名	備考
1	K39道跡 重要文化財改修工事箇所	東北帝国大学農科大学期	高まり	建物基礎	円礫利用	2014	北大構内の遺跡22 2016 北海道大学埋蔵文化財調査センター	
2	K39道跡 医学部百年記念館地点	北海道帝国大学期?	窪地	暗渠	土管連結	2017	北大構内の遺跡25 2019 北海道大学埋蔵文化財調査センター	
3	K39道跡 医学部陽子線治療研究施設地点	北海道帝国大学期	高まり	建物基礎	円礫利用	2011	北大構内の遺跡20 2013 北海道大学埋蔵文化財調査室	
4	K39道跡 薬学部ファーマサイエンス研究棟地点	北海道帝国大学期	高まり	建物基礎	コンクリート・円礫・レンガ利用	2012	北大構内の遺跡21 2015 北海道大学埋蔵文化財調査室	
5	K39道跡 経済学部研究棟改修移行対応施設工事予定地(経済学研究棟改修工事箇所と略記)	東北帝国大学農科大学期 もしくは 北海道帝国大学期	高まり	暖房施設	レンガ利用	2005	北大構内の遺跡14 2006 北海道大学埋蔵文化財調査室	
6	K39道跡 農系総合研究棟新営工事予定地	札幌農学校期 もしくは 東北帝国大学農科大学期	高まり	建物基礎	円礫・レンガ利用	2002	北大構内の遺跡13 2003 北海道大学埋蔵文化財調査室	
7	K39道跡 こども本の森地点	北海道帝国大学期	高まり	暖房施設	レンガ利用	2024	2024年度発掘調査実施、発掘調査報告書の作成途中	
8	C44道跡 植物園温室地点	北海道帝国大学期	高まり	建物基礎	円礫	2010	北大構内の遺跡3 1984 北海道大学埋蔵文化財調査室	

※ 札幌農学校期：約1901年～約1906年、東北帝国大学農科大学期：約1907年～約1917年、北海道帝国大学期：約1918年～約1945年と仮に時期区分した。

農学教室附属ガラスハウスの建物基礎

農学部農系総合研究棟建設地で事前調査をした結果、予定地北東端でコンクリート基礎を地表下約30cmで発見しました(2頁表の6)。その基礎の下位ではラクビーボール大の礫が敷き詰められ、上位では赤レンガが敷重ねられていました。

建物基礎と推測して、過去の構内の建物配置図と工事予定地とを対比すると、1910年に建てられたガラスハウスの基礎(右下写真)と分かりました。ガラスハウスは、北8条キャンパスに移転の際の札幌農学校農学教室(左下写真)の施設です。ここでは鉢で植物を育て、研究していたようです。



▲札幌農学校農学教室の建物(1910年ごろ)

低地に設置された土管暗渠

医学部百年記念館建設地で事前調査を実施した際、地表下約1mの深さで、土管を利用した暗渠が発見されました(2頁表の2)。窪地での水はけ改善を試みた痕跡のようです。

土管暗渠は、窪地、低地に対する農地改良の一環として、札幌農学校のブルックス教授が19世紀末に日本に導入しました。現代においても敷設・利用されています。

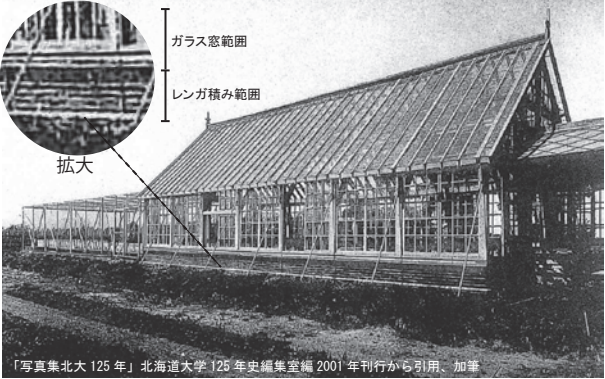


▲窪地で確認された土管暗渠

長さ約30cm、直径約5cmの土管が地表下約1mの深さで発見された。葉脈状に土管は連結されていた。



▲農学部農系総合研究棟建設に伴う事前調査で確認したコンクリート梁(上位にレンガが敷設)

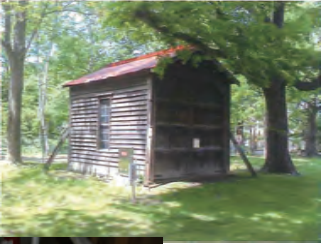


▲農学教室附属ガラスハウスの建物(1910年ごろ)

農学校第二農場の秤量所の床下

重要文化財の改修工事に伴い、事前調査を実施した結果、1909年ごろに札幌農学校第二農場の建物群が現在の場所に移設された際の建物基礎工法が確認されました(2頁表の1)。

秤量所のコンクリート床の下位では、拳大の礫が平坦に敷かれ、建物地盤が整えられていました。建物の荷重による地盤沈下を防ぐために施された栗石基礎の一種と考えます。



▲現在の秤量所建物

▲秤量所の床下で確認された栗石基礎の一種
床下約20cmの深さで、長軸約15cmの円礫が床下で付設されていた。